

本実 際の 目標 の 指 導 基 礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>ともに協力していい汗をかこう。</li> <li>土に親しみ、野菜と語り、心豊かな人間になろう。</li> <li>収穫の喜びを味わおう。</li> </ul>
指 導 の 実 際	<p>計画 学校行事、技家、学級会活動、学級指導、進路指導との関連を図って立案する。 (計画に当って、考慮すること) ア 収穫技術者指導者として、PTA役員に依頼する。 イ 1年生～3年生まで基本的に同一活動をさせる。 (収穫の意義) 長期に渡り、丹精をこめて育てて来た作物を刈り採ることであり、完成である。そこに至るまでに、自然の恩恵に浴したことはもとより、いろいろな人々の助力、指導があった。1つぶ1つぶが汗と労働と育て</p>

段階	活動・内容	指導の留意点・予想される反応	期待される成果
事前 (短学活)	<ul style="list-style-type: none"> <li>収穫の意義を確認する。</li> <li>班ごとに、刈り取り係、ソバ落とし、運搬係に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人に役割を分担させ、使命感、責任感を自覚させる。</li> <li>各クラス、各班ごとに役割を分担させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収穫することの意義を明確にとらえる。</li> </ul>

	学習活動・内容	予想される反応	指導の留意点 (働きかけ)	期待される成果
事前 指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>収穫の意義を確認する。</li> <li>仕事の内容、手順、役割について理解を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>係生徒(全プロ委)が説明、役割分担など指示できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1人に役割を分担させ使命感、責任感を自覚させ集団の一員としての連帯感を育てようとする。</li> <li>用具の準備 かま、たたき棒、ビール箱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収穫の方法が理解できる。</li> </ul>
(短学活)	<ol style="list-style-type: none"> <li>かりとり作業</li> <li>脱穀</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各クラス、各班ごとに役割、各自で準備するもの分担が出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>用具の準備 かま、穀物袋、ビニールシート 打棒、軍手。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かま、軍手は生徒各自で準備する。</li> </ul>
十月 二十一	<ul style="list-style-type: none"> <li>収穫作業の役割分担を再確認する。</li> <li>役割分担に従って、用具その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班ごと、刈り取り係、ソバ落とし、運搬係 2つに分け、それぞれ交替して行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任及びPTAの援助指導指導者(各班1名以上)が稲刈りがまの使い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導について、実践に連なるようにしっかり聞くことが出来る。</li> </ul>

実施 当日 の 指 導 (四) 時 間	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業の役割分担を確認する。</li> <li>路上通行、農具運搬の安全確認の指導をうける。</li> <li>役割分担により作業を行う。</li> <li>① 刈り取り             <ul style="list-style-type: none"> <li>足を安定させて。</li> <li>安全に行なう</li> </ul> </li> <li>② 脱穀             <ul style="list-style-type: none"> <li>たたいて実をおとす。</li> <li>たたきつけて実をおとす。</li> <li>脱穀機で落す。</li> </ul> </li> <li>③ 乾燥</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全プロ委員によって、ねらいと作業の注意点を再確認する。</li> <li>稲刈りがまの使い方の指導をする。(担任及びPTAの援助指導者)</li> <li>稲刈りがまの使い方を再度指導する。(PTAの援助指導者)</li> <li>実のたたき落し方の指導をする。(PTA指導者)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の準備物を用意し、作業ができる。</li> <li>道路では2列になり、正しい歩行ができる。</li> <li>班の2つの係で交替して行なう。</li> <li>刈り取り方(かまの使い方)を大部分の生徒が分からないだろう。</li> <li>脱穀のし方には、いろいろあることを知る。</li> <li>乾燥することの</li> </ul>
--	---	---	--

十 時 三 十 分 ～ 四 時 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>このあとの処理につき確認する。</li> <li>用具のあとしまつをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製粉とソバ打ちにつき知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソバ打ちパンフレットを配布する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かたがわかる。</li> <li>製粉とソバ打ちがわかる。</li> <li>あとしまつをきちんと出来る。</li> <li>作業後の充実感にひたる。</li> </ul>
事後 指導 (短学活)	<ul style="list-style-type: none"> <li>刈り取り、脱穀作業の反省をする。</li> <li>製粉、ソバ打ち、会食の計画を立てさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業に対する意欲的参加が助長されるであろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反省カード配布、集計し、次の計画を立てる際の資料にさせる。</li> <li>全生徒に反省点と計画を検討させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の作業への意欲と計画につき考える。</li> <li>動労観を高める。</li> </ul>

事後 (短学活)	<ul style="list-style-type: none"> <li>刈り取り、脱穀作業の反省をする。(班、個人)</li> <li>製粉、そば打ち、会食の計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反省カードを配布し、集計する。(資料)</li> <li>全生徒に反省点と計画を検討させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の作業への意欲と計画につき考える。</li> <li>動労観を高める。</li> </ul>
-------------	--	--	--

生徒の実施事例

行事名 動労生産活動

1. 主題 そばの収穫
2. ねらい 収穫の喜びを味わうと共に、農業に従事する人たちの苦労を知る。

3. 計画と実際

準備するもの

個人——軍手、タオル、いねかりがま、そばうち棒(そばの実をたたいて落とすもの、長さ60cm、太さ2cm程度)、長ぐつ

PTAからの援助物 —— かま、モミ通し、箕、作業シート(2枚)、足踏み脱穀機、唐箕、樹脂袋  
学校で準備するもの —— 作業シート(6枚)、ビールの空箱

(実施の実際)

実施案通り、全校プログラム委員のリードでおこなわれた。当日は快晴にめぐまれ、実施に基づき、PTAや地域の人々(専門家)の援助指導のもの全校一斉に蕎麦の刈りとり、脱穀、そして、乾燥作業を実施した。

予定より1時間もはやく作業が終了し、計画以上の成果があった。生徒と教師の評価と反省は、次の通りである。

生徒自己評価状況 動労生産活動(蕎麦刈り)の反省(自己評価)の集計(集計人数184名)

No	評価項目	第 1 学 年				
		1	2	3	4	5
1	1人1人が具体的にねらい、実施内容を確認、検討することができた。		3.0	53.0	33.0	11.0
2	安全に留意して、作業することができた。			13.0	39.0	48.0
3	計画に従って、自主的・積極的に作業できた。	2.0	14.0	58.0	15.0	11.0
4	作業を通して、農業に従事する人たちの苦労を味わえた。		2.0	21.0	50.0	27.0
5	正しい作業の手順、用具の使い方を理解し協力してできた。		6.0	31.0	31.0	32.0
生徒	① つかれたが、とても楽しかった。 ② 農業に従事する人たちの	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までになくみんな協力し、言われても自分から仕事にとりくんでいた。</li> </ul>				